



IUFRO-J NEWS

No. 102(2011.3) —

議長からのメッセージ

IUFRO-J 議長 鈴木和夫

昨年、第23回 IUFRO 世界大会と国際生物多様性年という大きなイベントが過ぎ、2011年は国連の定めた国際森林年 (the International Year of Forests)、そして2014年には第24回 IUFRO 世界大会が米国ソルトレイクシティで開催されます。前報 IUFRO-J NEWS 101、「IUFRO 国際評議員会・拡大理事会報告」(鎌田直人氏)に述べられているように、IUFROは新しい執行部が発足し、Don Koo Lee 会長(韓国)から Niels Elers Koch 会長(デンマーク)へとバトンタッチされました。この2月には最初の拡大理事会がウィーンで開催され、本号にご報告いただいていますように日本からは酒井秀夫氏(Division 3 副会長、東大)が参加されました。前期の拡大理事会には、中静透理事と3名の拡大理事が参加していたことからすると、今期は酒井氏お一人でご苦勞の多いことと思います。IUFRO-Jとしてはより一層の連携に努力したいと思います。今期の IUFRO 執行部は欧米を主体としていますが、二人の副会長 Mike Wingfield (南アフリカ)・Su See Lee (マレーシア)両氏はともにわが国とは親交が深く、Wingfield氏は「マツ林の保全に関する国際シンポジウム」(IUFRO-J NEWS 66, 1999)では国際植物病理学会副会長として来日しており、Lee 女史は「1994年 IUFRO-SPDC バイオリフォル・マレーシアワーク

ショップ」(IUFRO-J NEWS 55, 1995)でマレーシア人工造林地での菌根菌研究を報告している優れた FRIM の女性研究者です。いずれにしても、Niels Koch 会長とともに IUFRO 執行部との連携に努めて、森林・林業研究におけるわが国の一層の国際的プレゼンスを図りたいと思います。

前報(IUFRO-J NEWS 101)に、平成22年度機関代表者会議で討議された IUFRO-J の活動に対する意見調査中間報告が掲載されました。IUFRO-J 組織や活動のあり方についてさまざまな意見がありますが、中間報告からは概ね従前の活動が求められているように思われます。事務局としてはこれらを踏まえて新しい活動の方針を検討したいと思います。既報「IUFRO-J NEWS 100号を迎えて」に述べましたように、「何をしてもらうのか」のみならず「何ができるのか」という IUFRO-J の初心に立ち返り、多くの方々が情報を共有して国際的な森林・林業研究活動を展開されることをお願いする次第です。」を、再度お願いしたいと思います。

なお、昨年ソウルで開催された IUFRO-IC (国際評議員会)は鎌田直人氏(東大)に代理出席して頂きましたが、今期は代表に大河内勇氏(森林総研)、副代表に酒井秀夫氏(東大)を推薦致しましたので、宜しくお願い致します。

2011年ユフロ拡大理事会に出席して

東京大学 酒井秀夫

はじめに

第50回ユフロ拡大理事会（Enlarged Board Meeting, 以下EB）が、2011年2月24日、ウィーン郊外の森林研究研修センター構内にあるユフロ事務局で開催されました（写真-1）。理事会の枢要なメンバーは各1から9までの分野（Division, 以下D。分野構成はユフロのホームページ等をご参照下さい）のコーディネータ（Coordinator, 以下C）ですが、拡大理事会はこれに副コーディネータ（Deputy Coordinator, 以下DC）を加えたものです。今回、小生はD3のDCとして参加しました。

昨年ソウルでの世界大会から次回ソルトレイクシティ（SLC）までの今期（2010-2014）会長はKoch氏（デンマーク）、副会長はWingfield氏（南アフリカ）とLee女史（マレーシア）です。事務局長もMayer氏からBuck氏になりました。彼らが分担して議事の進行を

務めました。

ユフロはボランタリーベースですが、今回の出席者表を見ると、フィンランド森林総合研究所METRA、デンマークが多く貢献しています。私事になりますが、2002年にデンマーク森林景観研究所（旧国立林業試験場）に短期滞在したときの所長がKoch氏であり、デンマークの行政改革の真っ只中、定員削減を余儀なくされながらも難局を乗り越え、多くの機関が廃止される前に、研究所をいち早くコペンハーゲン大学の傘下にする手腕を発揮されました。

Lee前会長は出席予定でしたが、韓国山林局長官に就任されたため、急遽欠席となりました。Mayer氏も初日に顔を出され、実りある会議となるようにと挨拶されました。以下、十分聞き取れていないかもしれませんが、議事に沿って内容を報告していきたいと思います。詳細についてご質問があれば、筆者宛お問い合わせ下さい。



写真-1 拡大理事会

開会

まず、参加者の自己紹介、議題の確認、第49回EB(ソウル)の議事および保留事項の承認があった。

新会員の承認

新会員となる研究機関がスクリーンに映写されて承認された。退会会員も紹介され、日本の機関もあった。退会理由は経済的理由かとの質問があり、会長から国によってそれぞれ事情があろうとの回答であった。

各分野の報告

2010年の第49回EBで次の6項目がユフロ戦略(Strategic) 2010-2014としてタスクフォースになっている。

- －森林と人々
- －森林と気候変動
- －森林のバイオエネルギー
- －森林の生物多様性
(今回、「森林の生物多様性とエコシステムサービス」に名称変更が提案され、承認された)
- －森林と水の相互関係
- －未来のための資源

背景として、2012年がりオの地球サミット+20年にあたり、10月にはニューデリーで生物多様性条約締約国会議COP11が開催される。2013年にはトルコで森林に関する国連フォーラムUNFF10－Forests for Economic Developmentが、気候変動枠組条約締約国会議COP17がダーバンで開催される。

各DCは現在の構成(Structure)とこの戦略にからめた2010年からの活動報告を求められ、議論し、承認を受けた。DCが不在であったり、構成が非常に複雑で(D4)、まだ構成がきまっていないDもあった。各ワーキンググループ(WG)と戦略の相互関係(cross cutting)を提示したDもあった。WGの廃止または新設を検討中であったり、WGのCが動いていなかったり、WGのDCがいなくてもまだある。D3はForest Engineering Conference(FEC)をユフロの傘下にしていくことを提案した。FECは、現場技術者も構成メンバーになっている。D6のDCにRG6.02のCである伊藤太一氏が認められた。D9はオフィスホル

ダーの1/3が女性である。

DCとWGの役割と責任を明確にとの質問があり、会長ではない委員からは、会長とコミュニケーションをしっかりとればとの意見があった。また、どうやって構成が改善されたかをチェックするのかとの質問があり、全体を見るしかない等のやりとりがあった。

タスクフォース

森林と人間の健康に関するタスクフォースの現状と計画の報告がフィンランドRaitio氏よりあり、2014年まで継続することが認められた。

ポーランドPaschalis-Jakubowicz氏から森林科学の教育に関する取り組みが報告された。経緯はヨーロッパの高等教育がボローニャシステムになり、2009年ブエノスアイレスの世界林業会議で取り組みが提案され、2010年ソウルで同氏が選任され、同年12月の理事会で認められた。なぜユフロなのかということに関して、ユフロはいろいろなことを含んでおり、教育水準を高めるためとの回答であった。大学レベルを目指したいとの提案に対して、高校生の教育や、問題の解決方法が大事だとの意見があり、各地域の代表、専門家、学長等を中心にコアグループをつくる提案が述べられた。

事務局のスペシャルプログラム

副事務局長Kleine氏より、スペシャルプログラム(Special program, IUFRO-SPDC)の説明があった。「世界の森林・社会・環境(WFSE)」、「グローバル森林情報サービス(GFIS)」、「グローバル森林エキスパートパネル(GFEP)」の説明があり、それぞれのCより報告があった。門戸を開こうという提案に対し、若手や途上国の参加旅費、スポンサーをどうするのかという問題提起があった。

ユフロの財政と資金獲得

ユフロの財政状況が説明され、2012年の予算は1347,500ユーロである。会費収入が27.5万ユーロで、オーストリア政府が35万ユーロ、フィンランド外務省が31万ユーロ、METLAが15万ユーロを出す予算である。フィンランド農林省Heino氏を中心になって、ファンド獲得の活動をすることが認められた。

連絡事項と対外関係

2011年国際森林年に対する一連の広報活動、他の国際機関との協力が提案された。対応がおそくないか、どこに焦点を置くのかとの質問があった。

ユフロのノミネートが少ないアフリカ、中米をどう増やすかということが話題になった。中国 Liu 氏を中心に、アジアなどの地域の活動を対象とする委員会が立ち上がった。また、論文、学位論文、ポスターにおける広く様々な業績を対象に各種表彰を行う方針が事務局サイドから出された。オーストリア Pröbstl 女史から、ユフロの印刷事業のオンラインアンケート案が提示された。

2014年ユフロ世界大会

2014年ユフロ世界大会の運営委員 Guldin 氏より、ホテルの希望などの提案があった。世界大会 Congress Scientific Committee (CSC) の議長に米国 Parrotta 氏が選ばれた。

国際林業学生協会への協力

国際林業学生協会 (International Forestry Students' Association, IFSA) への協力が議題になり、専門家のサポートによる質の高い組織、教育、プロジェクトが提案された。

Association, IFSA) への協力が議題になり、専門家のサポートによる質の高い組織、教育、プロジェクトが提案された。

今後の予定

今後の EB は、2012年6月25～30日ナイロビにおけるユフロアフリカ会議のとき、2013年は6月12～14日コスタリカ、2014年は10月1～3日ユフロ世界大会 (10月5～11日) の直前に開催予定である。2019年の世界大会はポルトガルで開催され、運営規則が提示された。

閉会

EB終了後、同会場でオーストリア森林省のレセプションがあった (写真-2)。国立音楽学校の学生による弦楽四重奏のもてなしがあり、日本からの留学生も熱演していた。レセプション終了後、翌25～26日の Scientific Seminar (SS) にむけて、貸し切りバスで郊外のクライナー山荘に移動した。SSについては次回報告いたします。



写真-2 レセプションにおける弦楽四重奏の演奏

「侵入生物と貿易に関する国際会議 (IUFRO 7.03.12)」

開催のお知らせ

東京大学 福田健二

IUFRO のワーキングユニット 7.03.12 “Alien invsive species and international trade” (侵入生物と貿易) の第 3 回研究集会を、下記の通り 2011 年 10 月 16-19 日に東京大学において開催します。なお、会期中に横浜港に隣接する農水省横浜植物防疫所の見学を予定しています。20-21 日のエクスカージョンでは、宮城県松島の松枯れ、山形県におけるナラ枯れの被害地の実態とその防除の見学を行う予定です。

このユニットは、2005 年にブリスベンでの第 22 回世界大会において創設された新しいワーキンググループで、コーディネータは Hugh Evans (イギリス)、Deputy coordinator は Eric Allen (カナダ)、Kerry Britton (アメリカ) と福田の 3 名がつとめています。形式上は IUFRO 第 7 部門 (森林の健全性) の 3 つの分野 (7.01 大気汚染と気候変動, 7.02 病害, 7.03 虫害) のうち虫害分野に所属していますが、メンバーは病害と虫害の双方の研究者にまたがっています。さらに今後、第 8 部門の外来動植物のユニット (8.02.04 Ecology of Alien Invasives) との連携も検討されています。

第 1 回研究集会は、2006 年 7 月にポーランドの Judlnia 市で開催され、世界の侵入生物被害の実態、侵入生物の発見、検疫体制等に関する研究発表があり、特に貿易時に梱包用木材とともに侵入するカミキリムシなどの穿孔性害虫に関する話題が注目を集め、梱包材の燻蒸、加熱処理に関する提言がまとめられました。この提言は、IPPC (International Plant Protection Convention: 国際植物防疫条約) にもとづく梱包用木材処理法のガイドライン (ISPM 15: International Standards for Phytosalinity Measures No. 15) の内容に反映されています。第 2 回研究集会は、2008 年 6 月にアメリカ合衆国ワシントン DC 郊外の Shepherdstown において開催され、病虫害の侵入リスク評価、侵入経路 (Pathway)、GIS

を用いた被害モニタリング、国際的な情報ネットワーク構築などに関する議論がなされました。特に苗木や盆栽などの「栽植用植物 (Plant for planting)」の輸出入が病虫害の侵入経路となることから、規制を強化すべきであるとの認識がなされました。このたび開催予定の第 3 回研究集会は、当初は昨年夏にキルギスタンで行われることになっていたのですが、キルギスの政変によって延期されて東京で開催することとしたものです。

前 2 回の集会の話題を見てもわかりますように、このユニットは単なる研究成果発表会にとどまらず、実際の植物検疫や病虫害モニタリングなどの行政の施策に対して科学の立場から提言していこうという姿勢をもっています。残念なことに、植物検疫は農作物の病虫害の侵入防止に主眼がおかれているため、森林科学の研究者とは従来あまり接点がありませんでした。たとえば、生物多様性条約やワシントン条約などは森林科学や生態学の研究者にとって比較的身近でしょうが、国際植物防疫条約はほとんどの IUFRO-J 会員にとっては耳慣れない単語ではないかと思えます (私自身そうでした)。グローバル化の進行にともなって、今後、侵入病虫害や侵略的な外来動植物種による生態系の攪乱は、さらに拡大する恐れが高いと思われます。最近では、アジアのマイマイガの北米への侵入の可能性にもとづく北米の入港規制が行われ、その指定解除へ向けた技術開発も行われています。こうした問題にみられるように、輸出入の規制は幅広い産業の利害に直接関連していますので、特定の輸入国や輸出国の産業的利害に基づくのではなく、森林科学の研究成果にもとづく病虫害や雑草等の侵入リスクの公正な評価や、有効かつ現実的な検疫体制の確立が何より求められています。国家や産業界の利害を越えて世界の科学者が交流し客観的な情報を発信してくための場として、この IUFRO ユニットの役割はきわめて重要となっ

ていくものと考えています。

今回の研究集会では、松枯れをはじめとする侵入病害虫や外来動植物種、検疫などの話題はもちろんのこと、さまざまな国内外の森林生物に関する実態調査報告、生態、被害予測、モニタリング、防除、抵抗性育種など、多様な発表を歓迎いたします。日本では在来種であっても、欧米からみれば今後侵入の恐れのある種かもしれませんが、その逆の場合もあります。

ぜひこの機会を日本の研究成果を世界に発信する場としてご利用いただければ幸いです。

参加申込みは4月頃受付を開始し、7-8月頃に口頭・ポスター発表の申込締切を設ける予定です。詳細は下記HPに4月上旬に発表する予定です。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

記

会場：東京大学農学部弥生講堂

日程：10月16日(日) 記念講演、懇親会
17日(月)～19日(水) 研究発表会
20日(木)～21日(金) 現地検討会(松枯れ・ナラ枯れ)

問合せ先：〒277-8653 柏市柏の葉5-1-5

東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 福田健二

電話：04-7136-4766 FAX：04-7136-4756

e-mail：fukuda@k.u-tokyo.ac.jp

研究集会HP：<http://hyoka.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/alien.html>

IUFRO Unit 7.03.12 のHP：<http://www.iufro.org/science/divisions/division-7/70000/70300/70312/>

IUFRO Division 4 の世話役について

三重大学 松村直人

1. はじめに

昨年8月に韓国ソウルで開催された第23回ユフロ世界大会の際に、次期2010～2014年の役員や執行部体制について検討されたようである。最近になって、Division 4関係の情報が流れてきたので、私の任期中の活動記録と併せて報告させていただきたい。

2. Division 4 2001～2005, 2006～2010

Division 4はForest Assessment, Modelling and Managementを主要テーマに、4.01から4.05までのサブグループ、さらにその下に、4.01.01から4.05.02までのワーキンググループから構成されている。4.00が全体リーダーであるが、2000年前後からドイツ・ゲッティンゲン大学のvon Gadow教授が務めていた。Gadow教授は日本にも数回来日し、日本の森林研究者とも知己が多く、この分科会の再編、活性化にも熱心

で、日本人の貢献も多く求められていた。一方、森林計画学会は前身の林業統計研究会の頃から、IUFROとの関係も深く、京都での17回世界大会を始め、折々の国際学会の開催にも努力してきた。2000年以前には、木平勇吉先生、箕輪光博先生、天野正博先生らが4.00下部のサブグループにおいて、コーディネータ、副コーディネータを務めておられたと思う。4.02.02 多目的森林調査グループにおいては、木平先生の後を受けて、山形大学の野堀嘉裕教授が副コーディネータを務めておられ、2005年以降、私が引き継いだと記憶している。

形式的には、世界大会において次期役員体制が決まり、任期とはその世界大会の間の間になると思われるが、必ずしも、定期的に運営されているわけでもなく、今の時点でも世話役が空欄のワーキンググループもあり、かなり柔軟、いいかげんな所もある印象である。

4.00の全体リーダーは2005年以降、ポルトガルの

Tome 教授になり、2011 年以降も継続するようである。日本からは 2005 年以降、吉本 敦教授（現統計数理研究所）が 4.00 の副コーディネータを務めていた。

今後は 4.00 の副コーディネータに、McRoberts 氏 (USA)、Vanclay 氏（オーストラリア）が就き、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアというバランスで運営されるようである。ソウルでの Division 4 ビジネスミーティングでは、新たに、「risks」と「climate change related issues」の 2 つのワーキンググループの提案があったようであるが、現組織の整理も不十分なまま進めようとしても、分科会全体の活性化は難しいのではないだろうか。

3. S4.02.02 の世話役として

この 5 年間を振り返ると、決して積極的に活動したとは言えず、お恥ずかしい活動報告である。そもそもワーキンググループのリーダー、コーリー教授（インド）とは、数回のメール交換と今回韓国ソウルでの世界大会で、任期終了間際によくお会いして、いろいろ雑談、意見交換した始末である。他のグループでは、yahoo の ML を利用して登録者にワーキンググループ単位の情報を配布し、積極的に活動しているところもあるようであるが、概して、4.00 関係では、どこも不活発であったと思う。とはいえ、インターネットの整備により、従来よりは格段に情報交換が容易になり、紙のニューズレターから Web を中心とした運営に変わり、IUFRO 本部の事務局体制の整備、Web の充実によって、事務局の助力により、各ワーキンググループのサイトも整備され、コンテンツの提出を時折、要求された。まだまだ不十分ではあるが、少しずつ 4.00 のコンテンツも充実されている。それ以外では、いくつかの国際会議の後援を行ったこと、今年 9 月に三重大学で開催予定のシンポジウムの主催を行う予定である。

また、世界大会には多数のメンバーが集まり、各グループの運営について、直接相談できる貴重な機会となる。理事会を始め、各グループのビジネスミーティングなども開催できるチャンスではあるが、残念ながらこちらもグループによって、まちまちであった。今回のソウルでは、早くから参加を決めていたため、実行委員会からの提案にも積極的に返信し、S4.02.02 のビジネスミーティング開催に向けて、調整し、日程、会議室の確保も万全であったのだが、実際には知己の関係者を含め、数人しか集まらず、残念であった。

4. FORCOM2011 開催に向けて

2004 年 10 月に国際研究集会「次世代のための森林の役割—森林資源管理の哲学と技術, The role of forests for coming generations—philosophy and technology for forest resource management, 略称 FORCOM2004」が宇都宮大学内藤健司教授を組織委員長に、森林計画学会会員を中心とした実行委員会で開催された。メインテーマとして、「新しい森林資源管理のあり方や制度、技術の検討」を取り上げ、研究集会を通じた情報交換により、次世代に引き継ぐ森林の役割を明らかにするとともに、森林資源管理の目指す方向と技術について討論したいと企画された。今回もこのメインテーマを引き継ぐ形で、The role of forests for coming generations—philosophy and technology for forest resource management FORCOM2011 として、9 月 25 日（日）～9 月 30 日（金）の予定で、研究発表、チュートリアルセミナー、エクスカージョンなどを企画している。多分野の研究者に関心を持って頂けるテーマでもあると思うので、是非多数の会員の皆さまのご参加をお願いしたい。Web サイトはまだ準備中であるが、以下に開設予定ですので、是非よろしくお願い致します。

<http://www.bio.mie-u.ac.jp/kankyo/shizen/lab4/> (工事中)

事務局からのお知らせ

1. 平成 23 年度機関代表会議のご案内

第 122 回日本森林学会大会が静岡大学で 2011 年 3 月 25 日（金）から 28 日（月）の日程で開催されます。それにあわせて表記会議を開催いたしますので、機関代表者の方のご参加をお願いいたします。

日時：平成 23 年 3 月 27 日（日）12：15～12：45

場所：静岡大学共通教育 L302

議題：会務報告，会計決算報告，監査報告，事業計画案，予算 など

代表者会議で取り上げるべき議題がございましたら、事務局主事（藤間）宛ご連絡願います。

2. IUFRO-J 研究集会事務局・参加助成

平成 23 年度に開催される研究集会に対し、平成 22 年 12 月末までに、事務局助成 2 件の応募がありました。選考委員および事務局による審査の結果以下の助成を実施することになりました。

参加助成 該当無し

事務局助成（2 件各 20 万円）

侵入生物と貿易に関する国際会議（P5 参照）

持続可能な森林資源管理に関する IUFRO 国際研究集会 FORCOM2011（P6 参照）

平成 24 年度に開催される国際研究集会についても、12 月末を締め切りに助成申請を募集する予定です。詳細については事務局にお問い合わせ下さい。

IUFRO-J News No. 102 平成 23 年 3 月 15 日

国際森林研究機関連合 - 日本委員会事務局

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

森林総合研究所 国際連携推進拠点

TEL 029-829-8327, 8328

iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

〔編集・発行〕